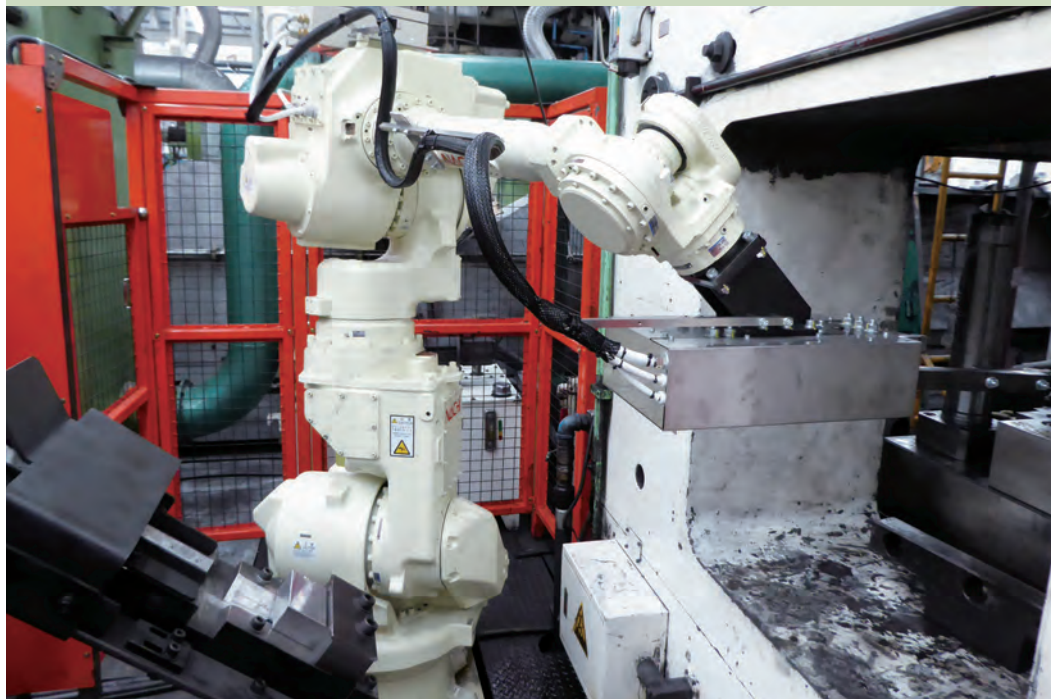


FAのニーズに ロボットテクノロジーで応える

海外発注可
納期相談
企画力自信有
コスト相談
オンライン技術
メイドイン
ジャパン
試作可
小ロット



熱間鍛造ラインで活躍する7軸ロボット

業務内容 ファクトリーオートメーションの プロフェッショナル

「東洋理機工業」は昭和23年、細見成人社長の父・細見重信氏が、機械部品やボルトなどを取り扱う鉄工所として創業した。その後、化学工場向けの金属タンクや製鋼所向けのコンベアなどの生産設備の製造を経て、建材メーカーや製瓶メーカーの生産ラインなども構築するようになり、作業現場の自動化を得意とする会社へと成長した。細見社長は大手企業の機械研究所で勤務した後、「ロボットを開発したい」との思いから入社。大手建機メーカーの産業用ロボットなどを手がけ始め、システムインテグレーターとして幅広く活動するようになった。

強み 現場の負担を最小限に

ハンドリングの分野で他社ではなかなか手がけられない過酷な作業環境におけるロボットシステムのノウハウを持つ。「きつい・汚い・危険」といわれる3K職場の負担をできるかぎり排除しようと試みる。

その例が、振動・騒音・粉塵など非常に危険で過酷な現場で、1,200℃以上の高温となったワーク（対象物）をつかみ、鍛造プレス機にセットする作業が必要となる熱間鍛造の自動化である。現在では多くの自動車部品メーカーなどに納入し、作業現場の改善に大きく寄与している。仮にロボット1台の導入コストを1,000万円とし、ロボットの耐久時間を3万時間とすれば、ロボットの価格は時給換算で333円となり大幅なコストカットにもつながる。

技能承 技術伝承 人からロボットへ

同社が目指すところは「職人からロボットへの匠の技の継承」だ。少子高齢化によって労働

人口が減少する社会を見据えると、産業分野でのロボット導入は避けては通れない道だ。長年にわたって蓄積してきた自動化技術を駆使して、今まではさまざまな制約のもとにロボットを導入できなかったシーンに対しても、1社1社の現場ニーズに合わせてカスタマイズすることでロボット導入を可能にする。

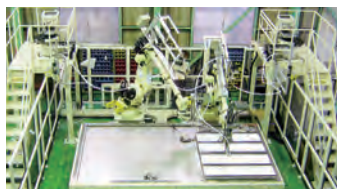
今後の展望 危険な現場に高機能で 使いやすいロボットを

作業現場にある実機をモニター室にある小型のスケールモデルで操作する「マスタースレーブロボット」を今後の主軸として考えた。ジョイスティックや作業ハンドルではなく、実機と同じ小型のモデルで直感的に作業することでロボット操作の習熟が不要となる。

「高温で溶かした鉄の流し込みを行う鋳物製造の現場など、危険な作業をぜひともマスタースレーブ化したい」と細見社長は今後の展開を熱く語る。今まで世の中になかったものを実現し、1社で実現した技術を他社に水平展開し、多くの作業現場の自動化を目指す。



お好み焼き調理ロボット「アンドリュウ」



家屋外壁材ビス締めロボット

当社の歴史



社名の「理機」は合理性を追求する機械装置メーカーを目指すという先代の思いから命名しました。過酷な環境下で働くロボットシステムに強みを持っています。今後は遠隔操作型のロボットにも力を入れて参ります。

代表取締役 細見 成人さん

<http://www.toyoriki.co.jp/>

主な事業内容

産業用ロボットのシステム
インテグレーター、産業用
ロボットの開発

主な取引先(納入先)

ロボットメーカー、建機・熱間
鍛造・自動車メーカー、機械系
商社

●住所 〒555-0012
大阪市西淀川区
御幣島6-13-60
●TEL 06-6473-6667
●FAX 06-6473-6446
●創業 昭和23年9月
●設立 昭和37年9月
●資本金 3,000万円
●従業員 25名